

5 . 小栗田原・越路原の変動地形 小千谷地震説のルーツ

(長岡市来迎寺～小千谷市山谷付近)

朝日原の東北部はやや高いかまぼこ型の、小栗田原は低い凹型の河岸段丘。
いずれも約 10 万年前の火山灰層 そのころには隆起のはじまり(同時期)。
2 つは隆起しながら 60m 以上の落差を形成、変動は現在も進行中。
越路原の東縁部に南北方向の活断層(赤矢印の間:地形上とくに顕著)
かつて信濃川が堆積させた砂利層(段丘れき層)を切断、地形も変形。
1942 年、研究者がこのあたりを「現在変動している地形」と表現。
1968 年、東大地震研究所が測量結果から「数年以内の地震発生」予測。

